

心に残る先人の言葉

広島西ロータリークラブ新会員オリエンテーション資料

PDG 諏訪 昭登

2016.11.24

皆様は卒業のない学校に入られました。ロータリーは学ぶに従って楽しくなり、ロータリーの道が無限であることも自覚される事と思います。どれほど立派な会員でも人間として完成しているわけではなく、それ故にロータリーは平等対等であり、誰に遠慮することなく胸襟を開いて語り合うことが大切です。

ロータリーはすべての宗教、政治思想などを認め合い、あらゆる職業を同等の価値観でとらえ、寛容を基礎とした友愛の精神の強調とその世界的発展を願った優れた一個人、ポール・P・ハリスによって創設されました。ロータリーの原点は、その発展の中で必要上構築された理論の中ではなく、彼の人間愛にあると言えます。

「ロータリーとは人類文化史が 20 世紀の時代に刻印を打った職業人の最も優れた倫理運動である」（深川純一 RID2680 《神戸》 1991-92PDG 伊丹 RC）

「倫理運動のみならず職業人の経営哲学、経営の帝王学を教えてくれるもの、そしてロータリーは端的に言えば利益を正しく得る方法を教える職業倫理運動である。その中心思想が“The ideal of Service”（奉仕の理想）だ」（安平和彦 RID2680 《神戸》 2002-03PDG 姫路 RC）

この二つの優れた言葉を最初にご紹介して、ここから、心に残るロータリーの先人の言葉の一端をお話していきましょう。

なぜロータリーは生まれたのか？

ロータリーの創設者ポール・P・ハリスは、夢想家の父、浪費家の母のため浮沈の激しい家庭に生まれ、バーモント州ウォーリングフォードの祖父母のもとで成長しました。1896年にはシカゴで弁護士事務所を開設しました。

『人間は千人の友人を持っていても他へ削さぐ友人は一人も居ない（エマーソン）』私はその一人さえ居なかった」（ポール・P・ハリス）

「1900年夏、夕食後ロジャーズパークで友人と散歩中に地元の人々との屈託のない交流を見て浮かんだアイデアは、『様々な職業から一人ずつお互いの心情を広く許し合えるような人を選んで一つの親睦関係を作れないか?』だった」(ポール・P・ハリス)

「灰色の都会が無性にわびしい。罪悪と腐敗に満ちたシカゴで信じ合える友人が欲しい。ロータリーは少年時代を過ごしたニューイングランドの村での安らぎを再現しようとする実験だった」(ポール・P・ハリス)

「1905年2月23日、ハリスを含む4人の同志でロータリーが創立され(シカゴRC)、重要な要素として社交クラブの長所たる肩のこらない仲の良い親善関係が創出できた。まるで砂漠の中のオアシスの感慨であった」(ポール・P・ハリス)

ロータリーとは？

創生期のロータリーでは、back scratching(背中をかき合う)、into their shoes(相手の身になる)の心境を醸成しながら職業上の相互扶助、親睦を高めることを綱領としましたが、翌年には3つめの綱領として地域社会への貢献が加わりました。

「クラブの親睦で培ったエネルギーを挙げて世のため人のために放流しよう」(ポール・P・ハリス)

「ポール・ハリスと友人達は昔からあったビジネスと友情との間の溝に橋渡しすることに成功した。これこそロータリーの貢献を比類なきものとした唯一つの重要な事実である」(ハロルド・トーマス 1959-60 RI 会長 ニュージーランド オークランド RC “ロータリーモザイク”の著者)

「ロータリーは友情という礎石の上に建てられており、“寛容の精神”で団結している。従って、もし“寛容の精神”を失えば、各クラブが持っている原子エネルギーの働きによってクラブは木っ端みじんに吹っ飛ぶであろう。この“寛容の精神”は祖父の一生を支えた魂であり、私の信念もそこに根ざしている」(ポール・P・ハリス)

「しばしばロータリーの良き親睦がロータリー全てであると誤解されている。クラブの中にも、ゆらぐことのない親睦の確立こそロータリー存在の根幹であると考えている人がいる。親睦はロータリーという苗木が根をおろして成長するための土壌を成すものである」(ポール・P・ハリス)

「全ロータリアンに対して管理者的立場に立って、その総体としての調和を求めため“寛容”(Toleration)の一語を叫んだ」(ポール・P・ハリス)

「寛容」はロータリーの第一原理となっている。欠点として気をつけねばならないことは、低次元の親睦概念に利用されてマアママ主義と迎合主義が横行する傾向が生ずることがある」(ポール・P・ハリス)

「ロータリーとは友情の製作者であり、人間の建設者である」(ハーバート・テラー 1954-55 RI 会長 シカゴ RC 「四つのテスト」作者)

「ロータリーはその友愛心にことよせて、善と悪との橋渡しをするものではない」(ポール・P・ハリス)

「ロータリーは人生の哲学、人生の在り方であり、両者は同意語である」(ハロルド・トーマス)

「ビジネスの科学はサービスの科学である。サービスの科学は人間の科学である。人生とは与えることと得ることの絶え間ない潮の満ち引きのようなものだ。作用と反作用が等しいことは誰でも知っている。私たちが人に奉仕するのは作用であり、人から受ける報酬は反作用だ。作用が原因で反作用は結果である。まず原因を作ろう。結果は自然についてくる。”He profits most who serves best” 最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」(フレデリック・シェルドン “Service”と職業奉仕理念の導入者 シカゴ RC 1908年入会 1930年退会)

「ロータリーは決して宗教でもなければその代用品でもない。それは古くから存在する道德観念の現代生活における、ことに職業生活における実践に他ならない」(ポール・P・ハリス)

「ロータリーの多様性は、最初のロータリー・クラブの礎石の一つである。多様性の重要さはロータリーの拡大につれて増大し、構成員の多様性、活動の多様性など、いずれも皆共通の目的に統一された中での多様性だ」(ハロルド・トーマス)

「ロータリーとは実践の理想である。他人に対して思いやり深く、他人のために尽くすことである」(チェスリー・ペリー 1910-42 事務総長：全米 RC 連合会 1910- 国際 RC1912- 国際ロータリー 1922- シカゴ RC 1908年入会)

「ロータリーは善意の奉仕そのものであり、ロータリークラブはその奉仕の訓練場である」(ガイ・ガンデイカー 1923-24RI 会長 フィラデルフィア RC “ロータリー通解” 著者)

「もし我々がロータリーの中に潜在する力を少しでも発揮させようとするならば、何よりもまずロータリアンの中にロータリーに対する真の理解を普及、徹底させなければならない」(ハロルド・トーマス)

「ロータリーに NO はない」の語源

「・求められた時 — 自分の役割を果たすこと
・狭量でなく寛大な人間、エネルギーと行動力のある人
・真の男、つまりロータリアンとなること」
ロータリーの会員からロータリアンへ（ガイ・ガンディカー）

「群れの力は狼だ。狼の力は群れである」（キップリング）。この美しい言葉こそロータリーの在り方を表現している」（レズリー・ピジョン 1917-18RI 会長 カナダ ウィニペグ RC）

「組織というものはそれ自体が目的ではなく、目的を達成するための手段にすぎない。その目的は言うまでもなく、より良きロータリー、より良きロータリアンの創出だ」（ハロルド・トーマス）

「ロータリーはクラブでもなければ国際的大組織（RI）でもない。それは全くあなた自身がロータリーだ — You are Rotary」（エド・マクロウリン 1960-61RI 会長 1961 年には東京大会が開催されている）

（注：RID365 《近畿地区》1961-62PDG で京都北 RC 会員の奏孝治郎は「このように極言する所に千万無量の重点があり、醍醐味がひそんでいる。」と評論しています。）

日本のロータリー

1920 年に日本の東京ロータリークラブの創立で渡来したロータリーでは、先人達による様々なロータリー研究が始まりました。折しも本拠地アメリカでは創立以来、実践に根ざした理論構築が進み、個人性を重視する職業倫理派主流の中で、宗教倫理に拠り所持つ団体性の社会奉仕派との対立が激化し、分裂の危機が発生していました。この混乱を見事に解決して、理念と実践原則を表明したのが、現在もロータリーの重要声明として生き続けている「社会奉仕に関する 1923 年の声明」、通称、決議 23-34 です。ちょうどその混乱の最中に出発した日本のロータリーでも緒論多出しましたが、賢明な先人達は教訓的名説、名言で混乱を沈静化することに努めました。太平洋戦争勃発の関係で 1940 年に RI を脱退した日本の RC 群は、敗戦後 1949 年に再加盟を果たし、新時代のロータリーを世界のロータリーと共に発展、推進してその存在感を保持しています。

ここでは、日本の先人の言葉をご紹介します。

「我々は他人に施されようと欲する全てを他人に施せと言う ^{くおんふへん} 久遠 普遍 の ^{きんそく} 金則（黄金律）を信じ、我等の社会は地球上の自然資源の宝庫に、万人が均等な機会をもって対処し得る時に、初めて和が結合されると言う主張を持論とする」（米山梅吉 戦前初代ガバナー RID70 1928-31PDG 1924-26 スペシャ

ルコミッショナー《無地区》 東京 RC)

「ロータリーは人生の修養の場である」(米山梅吉)

「ロータリーは社交団体ではない。理論の研究所でもなく、ただロータリーの信条を世間に実行しようとする目的を有する団体だ。その実行は決して会員間においてのみならず広く世間に及ぼそうとするものだ」(井坂孝 戦前第二代ガバナー RID70 1931-33PDG 1926-27 スペシャルコミッショナー《東京》 横浜 RC)

「奉仕の生活の中で人のために尽くす道は色々あるが、日常不断にやれるのは、自分の職業を通じての奉仕で、その実践が即ちロータリーなのだ」(井坂孝)(注：ロータリーの本質は今で言う職業奉仕以外にはないと力説しました。)

「ロータリーの目的は“奉仕”の言葉があるため、その意味を犠牲と誤り取り、己を無にしても奉仕を為さねばならぬかの如く考える人がいる。ロータリーは決して各自に犠牲のみを払えと強いるものではない。自分あつてのロータリーだ」(村田省蔵 戦前第三代ガバナー RID70 1933-35 大阪 RC)

(注：共存共栄)

『湯船で湯を自分の方に搔けばこっちに来るが、又先方へと帰る。少し押せば少し帰り、強く押せば強く帰る』(二宮尊徳) これは“*He profits most who serves best.*”(最もよく奉仕する者、最も多く報いられる)と同じ意味だ。“情は人のためならず”と同意義である」(湯船の譬え 村田省蔵)

(注：ロータリーの本質を語っています。)

「例会は銭湯の中のおつき合いだ。裸のつき合い、肌と肌とのふれ合いというムードである。例会場入口で浮き世の地位、名誉、財産、年令などという^{かみしも}袴を脱ぎ捨てて、真裸になる、みんな童心にかえって浮き世の憂^うさ忘れて心がふれ合う一時間を持つとう」(湯船論 村田省蔵)

「ロータリーの根本精神は“奉仕の理想”にある。一切の生活が“奉仕の理想”の中に没入している姿がもっとも理想である。カゴに水を入れようとするから難しい。水の中へカゴを入れればよいのである。“奉仕の理想”の中へ個人生活、職業生活、社会生活を没入すれば良い」(ロータリー^{みづ}論 森光繁 今治 RC 1951年「ロータリーの本」)

「場所 スイスの片田舎。一人の老婆が^{ざる}箆に入れた羊の毛を雪解け水に打たせていた。通りがかった教会の牧師 貴女は毎日曜日に私の説教を聞いて呉れているが沢山憶えているだろうね。婆さん 年のせいで聞くはしから忘れて情けないです。牧師 それじゃ説教は何にもならないな。婆さん でもこの羊毛をご覧ください。水はどンドン^{ざる}箆の目からぬけますが、羊の毛はこんなに美しくなってますよ」(^{ざる}の教え 齊木亀治郎が引用 RID368《兵庫・四国》1968-69PDG 姫路 RC)

(注：ロータリーの理想は高く理念は崇高で、いろいろ読み、聞き、考えても大抵忘れてしまいがちで

す。たとえ忘れてしまっても、行往坐臥、生活そのものがロータリーの実践を志すならば、自分自身が高められるという実践の重要性を語っています。)

「玉石の中には形や大きさに千差万別なものがあるにもかかわらず、その一つ一つの特徴を生かし、これを調和的に積み上げることで一つの大きな石垣となり、大きな動圧をささえる石垣となる。ロータリーもその説くところは、人を人として生かすめるといふ点にあり、どんな人物にもその適所があり、その所を得さしめればその総力が大きな社会的意義を持つことにつながる」(石垣論 森光繁)

(注：ロータリー運動の持つ社会的機能を巧妙に説いています。)

「昔、里芋は桶の中へ入れられて板片でグルグルかき回されてきれいな洗い芋となったものだが、きれいにしてくれたのは板片ではなくお互い里芋のすれ合いであったのだ。ロータリアンもこれと同じ原理でお互いの切磋琢磨を忘れないことだ」(芋桶論 森光繁)

「奉仕とは形の問題ではなく心の問題である。よく富者の万灯、貧者の一灯と言われるが、奉仕の真精神から出ていない万灯ならば心からなる貧者の一灯の方がはるかに意義深いものとなる。ロータリアンは万灯を^{とも}灯す財力があるかもしれないが、精神的境地を高めていくことで社会的に大きな影響力を持つことになる」(万灯論 森光繁)

「習字を習い始めた頃、どうも楷書が苦手なので行書、草書を教えて欲しいと頼んだら、先生に楷書で基本を作らない行書、草書なんてナンセンスだと叱られたことがある。ロータリーも基本を忘れずに、また基本がどんな理由によるものか根本理念を追求してもらわねば困る。ロータリー情報の研究とその徹底が望まれる所以でしょう」(斉木亀治郎 公式訪問で)

「型に入って型を出る。ちゃんとした型にはまって充分会得したあとで自分の型、その土地に合った型を編み出せ。さもないと土台から崩れるぞ！」(三宅徳三郎 RID368 《中国・四国》1962-63PDG 高松 RC)

(注：ロータリー知識習得の重要性)

「“忠恕” 忠とは己を尽くして人と交わり、恕とは己を押さえて他を思いやる即ち同情心である。まごころと思いやりがあり、忠実で同情心が厚いこと」(広辞苑)

(注：“奉仕の理想”の日本的表現としてよくたとえられる。チェスリー・ペリーの“thoughtfulness of and helpfulness to others”と通じる場合があります。)

ロータリアンはエリートか？

「ロータリアンは地域社会を良質化し改善していく義務が自分に課せられているという自覚を持つという意味であって、特権意識としてではなく、義務意識を持つ人の集まりがロータリーだという意味だ」

(塚本義隆 RID365 《京都・大阪中心》 大阪 RC)

ロータリーの思想は日本の昔の思想家の言葉でよくたとえられます。(例：鈴木^{しょうさん}正三、石田^{ばいがん}梅岩、二宮尊徳など) 日本にはロータリーを受け入れる素地があったと言えます。

最 後 に

私たちは縁あってロータリーの世界に入り、一生のつき合いをすることになりました。しかしながら、単なる昼飯会や感情的一般親睦だけでは寂しいではありませんか。自ら学び、ロータリーの楽しさを感じてみてください。そして何よりも、ロータリー哲学（奉仕の理想）を実践することが必ずや他人を助け、ひいては自らの人生を照らし、いずれは自己の職業を隆々と栄えさせるのだという確信と、ロータリアンとしての誇りを持って共に人生を楽しみましょう。